

平成30年度  
事業報告書

社会福祉法人教泉会



# 平成30年度事業報告

平成31年3月31日

社会福祉法人 教泉会

## 1. はじめに

国内の労働力不足は深刻な状況となり、我が国の女性の就労年齢を示していた特徴のM字カーブが変形してきている。子育て世代の労働力確保の観点から子育て世代の就労率が年々上昇が続いている証拠となっている。それに伴い低年齢児の保育需要が依然として高い傾向がみられる。

ただ3歳児については、今年度10名減となり定数を下回っており、減少してきている懸念があったが、次年度の申込み状況教ではほぼ定数に回復していることから、しばらく様子を見る必要があると考えている。

こども園においても、人材不足は深刻な状況になりつつあり、保育人材の確保の観点から賃金改善、働き方改革、PR方法の再考などを行ってきた。その結果、平成31年度採用については、ほぼ予定数を確保できている。

SNSの活用は情報ツールとして有効であることから、園の紹介、求人にも活用を進めたい。

一方、未満児の就園率が上がってきたことで、園に在籍する児童の生活習慣形成、乳児期の発達支援が進展する一方で、家庭での子育てとの格差が広がりつつある。地域や家庭の養育力の低下が、益々進行する中で、特に3歳未満児へのこども園としての支援を求められることが年々増してきているように思われる。家庭では、子育ての孤立化、育児に対する負担感・不安が増加しており、子育て中の親子が気軽に交流することができる環境づくりが求められている。また、安心して遊ぶことが出来ない地域の環境が、子ども達のコミュニケーション力、身体能力までも蝕んできている。

子育て支援センター「ゆずりは」では、支援メニューを見直しながら家庭支援を行っている。

次年度、更に充実した内容となるよう考えていきたい。

これからの時代を生きるために、子ども達に今何が必要なのか。現在の社会で問題視されるような状況を改善するには、こんなことを基本として、保育の改革を行ってきた約4年の年月が経過したが、本園度卒園した児童の姿として次のような変化がみられた。

- ・園内で「園長先生」と声をかけてくれる。そんな姿が増えた。  
(人と関わる力がついてきた証ではないか。)
- ・自ら「おはようございます」といえるこどもが多くなってきた。
- ・遊びに必要なものを、自ら作る姿がみられるようになった。  
(足りないもの、遊びに必要なものを工夫することができる)
- ・保育教諭の話を中心して聞ける姿がある。(保育教諭に注目して話が聞ける)
- ・遊びの中で、文字や数字に感心が持てるようになってきた  
(ごっこ遊びを通して金額・文字に興味を持つ 生活を通して数に感心が)
- ・集団で行動する姿が無駄がなくなっている。集団行動が早い。  
(年長の金華山登山、航空博物館などでの行動が早い お弁当の用意、片付けが自らできる 保育教諭に行動を促される子どもの姿が少ない 自分のことは自分で出来るようになっていることが要因ではないか )
- ・園庭で走り回る子どもの姿が多くみられるようになった。  
(園庭には段差や起伏のある部分が多くあるにもかかわらず、そんなところを駆け巡る子どもの姿はとても印象的である。しばらくの間見てこなかった光景である。  
遊びの中で運動能力も総合的に育っている 毎身体操の成果も出ている)

子どもが安心して生活できる保育環境を構築し、そのことにより自己肯定感を高め、主体的に活動できる教育・保育環境の基で、子どもの能力が発揮できるよう援助してきた成果が現れ

てきたと考えている。引き続き子どもの姿を見守りながら、こどもが発達するよう努めていきたい。

## 2. 黒野こども園運営状況

労働力確保の観点から、1年単位の変形労働制としながらも実質週休二日制を今年度導入した。変形労働制を維持したのは、当初、確実に週休二日制が実施できる体制となるのか確信が持てない状況であったことによる。1年経過してみればおおむね週休二日制を実施できた。

ただ処遇改善Ⅱの対象者にキャリアアップ研修の義務が課せられたことから、1科目3日間×4科目の研修に参加させることとなったが、代替え人員の確保が難しく、週休の兼ね合いから研修の時期は大変であった。今後も受講者が継続することから、計画的な受講が必要と考える。

今年度は、7名の新卒者が採用できたが、婚姻が増加しており、育休取得が増加する可能性を秘めている。年度中での採用が厳しい環境が継続する可能性が高いことから、今後も若干のゆとりを持った人事計画が必要と考える。

人材確保のため、賃金面のみならず、労働時間の短縮等、労働環境そのものの改善を更に進める必要性を感じている。

次に園舎の改修、改善については、平成30年度、前年度のトイレ改修の効果でかなりの節水となっていたが、突然の高額料金の請求に驚き調査を依頼した結果、厨房のピット内の大漏水が発覚し、給排水管共に腐食していることが判明した。応急修理はしたものの、いつ同じことが起きてもおかしくないという状況であると報告を受けた。これにより大規模な修理を必要とし、思わぬ出費となったが、これで水回りの多くの部分が結果的に更新したこととなった。

また、当初計画にあった非常用発電機の更新を実施したが、昨年の大規模停電の教訓から、消火栓ポンプ以外にも使用できるようにならないか確認したところ、消防の変更手続きを行えば認められるとのことから、非常用の回路を増設した。費用面では、発電機自体は当初の想定ほど金額は高くなく、費用も抑えられ、回路を含めた状態で予算の範囲に収まる結果となった。

教育・保育内容については、平成28年度から取り組んできた自己肯定感の育成を念頭に、3歳未満児の担当制保育の実施、3歳以上児の自ら活動を選択する保育を充実するため、環境整備を引き続き実施してきた。また、3歳以上児では年齢ごとに興味、感心の度合いで学習課題を持ち、学びを深めていく取組も行ってきた。

この成果として、先にも述べたように、子ども達がとても落ちついて生活する姿がみられると共に、人との関わりが盛んにみられるようになった。主体性をもった遊びに関わることをとおして、より深い遊びに繋がっていると考えられる。

前年度より、保育のITC化を進めるため、記録の部分でチャイルドケアウェブというシステムを導入し、業務省力化、児童の発達状況の把握に繋げて来たが、保育のふり返りを重視することからシステムの改良をお願いしている。

## 3. 黒野こども園運営実績

### 1. 保育園の概要

- (1)園名 社会福祉法人教泉会 黒野こども園
- (2)所在地 岐阜市古市場 111 番地 28
- (3)定員 375名

### 2. 平成30年度職員数

園長 1名 副園長 1名 主幹保育教諭 2名 指導保育教諭 1名 保育教諭 52名 看護師 1名 栄養士 1名 調理員 5名 事務員 2名 講師 1名 運転手兼用務員 1名

### 3. 平成30年度入所状況

月	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	月計
4月	6	42	51	78	94	85	356
5月	7	40	53	76	94	83	353
6月	8	42	51	76	94	85	356
7月	15	42	52	76	94	85	364
8月	15	42	53	75	94	84	363
9月	20	42	52	75	93	84	366
10月	21	42	51	75	93	84	366
11月	20	42	51	75	94	84	366
12月	20	42	51	75	94	84	366
1月	21	42	50	75	94	83	365
2月	21	42	50	74	94	83	364
3月	22	42	50	75	94	83	366
合計	196	502	615	905	1,126	1,007	4,351

### 4. 理念・保育目標達成に向けての取組

#### 『子どもたちは未来を担う宝物である』

子どもたちの健全な心身の発達を図りつつ、生涯にわたる人格形成の基礎を培うために、今あらためて「遊びの環境」を充実させ、「遊び込む力」＝「学ぶ力」を育てていくとの考えのもと、自然・物・人・社会といった様々な環境と共振（共に身体を動かす）したり、共鳴（共に心を動かす）したり、共創（共に脳を動かす）したりできる子どもを「プレイフルキッズ」と呼び、全身全霊で環境に関わって「遊び込める子ども」の育成を引き続きめざしてきた。

そこで、「ほっこり」「わくわく」「じっくり」「わいわい」という教育・保育の4つの窓を軸とする環境創りを行い、子どもたちが主体的に共振・共鳴・共創できる遊び（学び）の環境を充実させるよう子どもへの関わりを持つよう取り組んできた。

遊び込むことで集中する力、忍耐力、思考力、協同性など様々な力が身についてきた。

また、子育て支援センターを核に、保護者が育児に夢や希望を抱き、育児の中で子どもと共振・共鳴・共創できることを「プレイフル育児」と呼び、地域における世代間交流や地域の関係機関との連携を図りながら、保護者として成長していくためのサポートを行ってきた。

そこで、学校教育法・児童福祉法の理念を基本としながら、入園する乳幼児の教育・福祉を積極的に増進することを目的とし、また、こども園での生活が生涯にわたる人間形成の基礎を培う上で、きわめて重要な場であることに鑑み、家庭や地域社会との連携を密にしながら、家庭養育の補完を行ない、子どもが健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を構成し、自己を十分に発揮して主体的に活動しつつ、健全な心身の発達を図っていく。そのために、養護と教育が一体となる保育を目標とし、下記の保育目標を掲げ保育を行ってきた。これに基づいて新たな教育・保育課程の作成を行ってきた。特に近年の青少年を取り巻く問題が、社会不安の要因と成っている。このことが乳幼児期の関わりに起因していることが問題視されている。園においても、子どもにしっかりと向き合うことを確認してきた。

また、年長児については、小学校との連携を積極的に図ることを目的として、黒野こども園版アプローチプログラムを作成し、10の姿を基本に更に見方を18の視点をおき、近隣小学校へ配布すると共に、懇談の機会を設けた。

しかし、まだまだ学校によっては幼少保の連携が形式的に考えられている側面もあり、園側から積極的なアプローチをしているところである。



- 人件費支出 165,000 円
- ・眼科検診 5月18日、5月25日
- 人件費支出 165,000 円
- ・児童検尿 6月22日、10月26日

#### 9. 職員研修

- 全国私立保育園研究大会名古屋大会 6/4.5.6 5名
- 中堅学習会 6/22 .8./2 9/7 10/26 10/19 11/7 13名
- 県民間保育園連盟保育セミナー 9/9 7名
- フレベル会研修 6/25 9/16 11/16 12名
- ハンガリー研修 1/7～1/14 2名
- 保育フォーラム 1/27 19名
- その他 多数

#### 10. 環境衛生検査

- ・岐阜市学校薬剤師会による環境衛生検査実施 5月24日(給食室)(水質) 6月29日、11月15日、12月17日(環境衛生)、2月19日(給食室)
- 保健衛生支出 149,488 円
- ・調理員 0-157 検便検査 月2回実施 ノウイズ年2回実施

#### 11. 加入保険

- ・全私保連 保育園児団体傷害保険・保育園賠償責任保険加入

#### 12. 年間の行事

園の行事に参加することを通して、園生活に潤いや変化を与え、さらに新たな生活を広げるように配慮し。また、地域の人々とのかかわりが持てる場となるように配慮した。

- 4月 辞令交付(1日) 入園式(6日) 親子遠足(20日)
- 5月 野菜苗植え(学年ごと)
- 歯磨き指導(クラス単位)
- 6月 保育参観(28,29日)
- 7月 プール開き(9日) 合宿(年長 20,21日)
- 8月 夏祭り(8日)
- 9月 プール納め(5日)
- 10月 ふれあいフェスティバル(2日) ゆずりは運動会(3日) 運動会(7日)
- 11月 秋まつり(10日) 金華山登山(16日)
- 12月 もちつき7日 クリスマス会(25日)
- 1月 観劇(21日)
- 2月 節分(1日) 生活発表会(8日)
- 3月 遠足(15日) 卒園式(26日)
- 毎月 誕生会・避難訓練
- 6月より不審者避難訓練(隔月)

## 4. 子育て支援

### 子育て支援室ゆずり葉

#### <運営方法>

- ・ 就園前の乳幼児とその家族が気楽に立ち寄れ、そこで心地よい一時を過ごしていただくための場や空間を提供する。
- ・ 就園前の乳幼児やその家族の実態やニーズを把握しながら、それに応じた子育て支援プログラムを意図的に準備する。

- ・ 保育者が乳幼児に関する相談に随時応じる。また、ケースに応じて各領域の専門スタッフと連携を図り、課題の解決に向けて支援をする。
- ・ 保護者向けに子育て及び子育て支援に関する講習やセミナーを実施し、子どもの発達への理解を促したり、子育てを楽しく感じられるノウハウを提供する。

#### <利用対象>

- ・ 就園前の乳幼児とその保護者
- ・ 子育て支援・家庭支援に関心のある地域の方々。

#### <具体的業務>

- ・ 子どもと親の集いの場や空間の提供。
- ・ 子どもと豊かな親子関係を築く為の援助  
(親子活動のサポート・子育ての仲間作りの支援など)
- ・ 子育てに関する相談に応じる。
- ・ 子育てに関する通信の発行・子育てセミナーの開催を行う。
- ・ 親子教室を実施し・親子でふれあい、楽しんで遊べる時間の提供。

#### <開設日程・時間>

- ①子育て支援室「ゆずり葉」を利用した子どもと親の集いの場や空間の提供  
(登録制)

月～金 午前10:00～16:00

土・日・祝日 又は黒野保育園の行事の期間は休み

- ②園庭開放

月～金 午前10:00～午後2:00

土・日・祝日又は黒野保育園行事は休み。

- ③親子教室 (予約制)

年間3グループ (各グループ 全5週間)

- ④子育て支援プログラムの提供

随時、通信にてお知らせします。

- ⑤相談事業

- ・ 電話相談 月～金 午前10:00～午後2:00

- ・ 面接相談 随時

- ⑥子育てセミナー

日程が決まり次第通信で随時知らせる。

#### <利用料>

- ・ H30年度保険料として、初回利用の際に一人(保護者・子ども共に)につき90円を徴収する。(この保険料はH30年度分なので、一度保険料を納めれば、平成31年 3月31日まで有効)

#### <利用者数>

4月	5月	6月	7月	8月	9月
43	92	100	110	150	91
10月	11月	12月	1月	2月	3月
197	66	28	49	121	86

\*利用者は、子育て支援室ゆずり葉、園庭開放、子育てセミナー、親子教室、子育て相談の利用者も含まれる。

### 親子教室

#### 【ねらい】

子どもとどのように遊べばよいのか、その関わり方などに困っている保護者や、子どもにどんなふうに対応すればよいのか悩んでいる保護者に向けたプログラム。特に親子教室では、実際に保育者たちが子どもと関わる姿を通して学んでもらい、また、一緒に子どもと体を動かしながら、子育て



での楽しさを感じてもらおうことをねらいとする。参加者がこの教室終了後、子育ての仲間として、自主サークルを作るきっかけになることも目的のひとつとしており、保護者同士が子育てについて気軽に話ができる関係になってほしいと願っている。

平成30年度親子教室開催日

日時 各コース6回

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
A	5/ 9	5/ 16	5/ 23	5/ 30	6/ 6	6/ 13
B	6/ 20	6/ 27	7/ 4	7/ 11	7/ 18	7/ 25
C	10/ 17	10/ 24	10/ 31	11/ 7	11/ 14	11/ 21
D	H 31 1/ 16	1/ 23	1/ 30	2/ 6	2/ 13	2/ 20

毎週  
水曜日

◎全回 (13:30～15:00)

定員 20名程度を1グループ

年間参加者数 134組

<活動の主な内容>

**\*新聞紙や段ボールを使った遊び\***

身近にある素材に興味を持ち、遊ぶきっかけ作りになればと新聞紙や段ボール遊びを取り入れた。内容は指先を使い自分で破ってみたり丸めて投げることを始めそれらを利用して母親が洋服を作ってみたり細長く破った新聞紙を床に貼り道づくりをして遊んだりした。新聞紙を破る経験が無い子も多い中、最初はどう遊んだら良いか、また遊ばせたら良いか分からず母親だけが破る方もあったが、少し裂け目を作り反対側を子どもに持たせて引っ張ってあげると音も聞きながら力も要せず破れることを伝え、そこから興味を持ち自分でやってみようとする子どもの姿も見られた。新聞遊びに関しては、季節に合わせて節分や運動会の時期には、的を作りチームに分けて豆まきをしたり玉入れをして、それぞれの親子が交わって遊べるように配慮した。

**\*運動あそび**

グループにより成長の年齢差は、まちまちだったが前半は2歳から3歳児がほとんどで室内で活発に体を動かしたり飛んだり跳ねたりする子どもの姿もあり親子で触れ合いながら体を動かせる遊びを行っていった。0歳児の下の子を連れて来られる方も何組かいて、母親が積極的に手を取りながらできない遊びの時は、こちらでそのお子さんを見て親子教室対象で来た上の子とも遊べるようにしていった。親子共に笑顔で楽しそうに触れ合っている様子が印象的だった。母親の話にも「分かってはいるけれど下の子に手がかかって二人きりで過ごせる時間が少ないから、ここに参加している時はそれができるのが良い」という声もあり子どもの様子を見て、母親が改めて子どもと接する時間の大切さに気づけたり母親自身がリフレッシュできていることを実感できる大切な機会であると改めて感じた。

**\*親子ふれあい遊び**

親子教室に集まった親子が家庭でもたくさんのふれあいが出来るようにと、ふれあい遊びをたくさん取り入れていった。伝承遊びから童謡をアレンジした遊び、様々な楽器を使うなど他の親子同士でグループになって一緒に行うふれあい遊びを楽しんだ。この機会を通して、親子のスキンシップの重要性を改めて感じてもらいながら、今回覚えた遊びを日常生活の中でも生かしてもらえるように、なるべく覚えやすく、かつアレンジによって様々なパターンにかえられる遊びを中心に紹介していった。

## 地域子育て支援活動

地域の子育て支援団体と連携を図り、出張保育や簡単なふれあい遊びの紹介などを行う。また、子育て支援活動の場所を提供して、園の施設を開放する。

\*平成28年10月25日(木) 13:00～15:00実施

場所：黒野こども園 2Fホール

### 育成会の流れ

13:00	☆来場者から受付
13:15	☆手遊び・ふれあい遊びをする
13:30	☆オーガンジーを使った遊び・パネルシアター親子での遊び、親同士の交流を促す遊びなど)
14:30	☆修了証書授与式
15:00	☆次年度の話し合い

青少年育成会の取り組みは、黒野地区の子育てサークルを発足させるための支援事業であるため、こうした機会に黒野こども園の子育て支援活動も知らせていった。

青少年育成会の取り組みは、黒野地区の子育てサークルを発足させるための支援事業であるため、こうした機会に黒野こども園の子育て支援活動も知らせていった。

## 黒野・西郷地区子育て支援ネットワーク協議会

様々な問題を抱える家庭が増え、こども園、地域子育て支援センター内だけでは解決や支援が出来ないケースが増えてきた。子どもと保護者のよりよい成長のために、地域の関係諸機関との連携を密にしていく必要がある。また問題が起きてからではなく、日頃から情報交換をしていく事が大切である。よって黒野、西郷地区子育て支援ネットワーク協議会のメンバーとして、会員と連携を図り子育て情報の発信、情報収集、家庭や発達に問題を抱える子ども(在園児、地域の未就園児とも)サポートを行ってきた。

### 4ヶ月・3歳児健診会場での「出張子育て支援」実施

西部ふれあい保健センターで行われる4ヶ月・3歳児健康診査会場での「出張子育て支援」の実施。(毎月1回。第2金曜日。)

#### 実施内容

- ・ 健診会場にて、健診の順番を待ったり、保護者が用紙に記入している間、子どもと一緒に遊ぶ。
- ・ 健診を待つ間、子ども対象にパネルシアターなどを用いて話をする。

### 4ヶ月・3歳児検診会場での「出張子育て支援」実施

西部ふれあい保健センターで行われる4ヶ月・3歳児健康診査会場での「出張子育て支援」の実施。毎月1回。第2金曜日。)

#### 実施内容

- ・ 健診会場にて、健診の順番を待ったり、保護者が用紙に記入している間、子どもと一緒に遊ぶ。
- ・ 健診を待つ間、子ども対象にパネルシアターなどを用いて話をする。
- ・ ゆずりは通信を配布し支援センターについての紹介をする。

## 体験事業

### \*ハッピーパパ・ママ出産前セミナー

7月18日 10月17日 出産前セミナー

～育てよう信頼関係～

保育士が講師となりセミナーを行った。参加者は1名で、0、1歳児クラスの見学をして出産に対する期待を持ってもらい、保育士による出産後の支援などの話を伺った。今回は1名のみ参加だったが、その分じっくりとお話を伺いながら、その都度アドバイスを差し上げたり、お母さんの思いを十分お聞きすることができた。今後も妊娠から出産までで終わらず、出産後の支援があるということをきちんと伝えて行くことが、子育て支援の第一歩になると感じた。

**\*ハッピーパパ・ママ 保育所体験事業**

入園を控えている0、1、2歳児の親子で、保育所の実際の保育を体験。  
ゆずり葉セミナー（主に開催したもの）

日 時	内 容	講 師	参加人数
第1回～3回 4月27日 5月24日 6月19日	ベビーマッサージで スキンシップ	保育教諭 山口 裕子	4組
第4回 6月21日 6月26日	子育てセミナー 『こども園体験』 (1・2才児対象)	保育教諭 村木 みちる	7組
第5回 7月30日	バランスボールセミナー 『ママとこどもの為の快適な体作り』～子どものロコモって知っていますか?～	産後ケア・バランスボールインストラクター/看護師 林 沙由理	5組
第6回～8回 8月30日 9月21日 10月30日	『親子で音楽遊び』～色んな音や楽器に触れて遊ぼう～	保育教諭 服部 磨季	20組
第9回 11月29日	『みゅうじっくはかせの 心育で音楽療法』 ～お子さんの中にある必ず来る敏感期の捉え方と考え方～	聖音楽教室主宰 澤部 美鈴 聖音楽教室講師 廣瀬 圭子	9組
第10回 12月19日	『クリスマス音楽セミナー』 ～歌って踊って ジョイフルクリスマス～	音楽療法士 太田 奈美	5組
第11～13回 1月25日 2月27日 3月20日	『親子で音楽遊び』 ～色んな音や楽器に触れて遊ぼう～	保育教諭 服部 磨季	22組
第14回 3月7日 3月13日	子育てセミナー 『こども園体験』 (1～3才児対象)	保育教諭 村木 みちる	14組

**一時預かり**

利用目的

保護者が以下のような理由で、子どもを家庭で保育できない場合に、保育園で一時的に預かる制度。

・仕事の都合 ・通院や治療 ・看護	・学習 ・免許取得 ・資格取得	・冠婚葬祭 ・引っ越し ・出産	・育児に伴う心理的や肉体的な負担を解消するための預かり
-------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------------

＊対象児童

市内在住の生後57日目又は6ヶ月目から就学前の子ども。

＊利用期間

利用は月に14日以内を限度とする。就労の為の一時預かり保育事業は、週3日を限度とする。

＊一時預かり保育利用者

1ヶ月ごとの各年齢の利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3	6	13	25
1歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2歳児	0	15	17	16	0	0	0	0	0	0	0	5	53
3歳児	0	0	0	5	4	0	0	0	0	0	0	8	17
4歳児	0	0	0	12	4	0	0	0	0	0	1	0	17
5歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月合計	2	15	17	33	9	0	0	0	0	3	7	26	112

電話相談

電話相談では、顔を直接合わせて相談しづらい、なかなか足を運んで相談をする時間が取れない、気軽に相談したいという保護者に合わせて開設する。利用者との対話しながら、子どもの状況を聞き相談相手となる。電話相談の中で、面談が必要な場合は、園にて子育て相談を行う。

また、専門的な知識が必要な場合、それに適した機関を紹介することも行っていく。

【相談日】 毎週月曜日～金曜日

【時間】 10:00～16:00

【相談受付電話】 TEL 234-3755

【Eメールによる相談】

平日、電話をかける時間が取れない、電話ではちょっと」という方向けに、次の事項を記入して、返信させ、相談担当者が返信メールで回答する。

面接相談

面接相談では、主に子育て支援室を利用する保護者や在園児の保護者から受け付ける事が多い。支援室での保育者との会話の中に出てくる、食事や排泄、または発達に関する様々な悩みや相談があるが、通常は話の中で保護者も納得、話すことによって育児ストレスを発散したりすることが出来る。これら一件ずつを面接相談とすると、日常の会話のほとんどがそれに相当するため、この面接相談は、一対一で相談時間を設けて行った場合とする。在園児の場合は、連絡帳や担任に伝わる情報などから、面接のきっかけを持つことが多かった。面接相談では、子どもの発達に関する相談もあるため、必要な場合は、専門機関の紹介や仲介、入所入園に関する情報提供など、一度の面接だけでなく、継続的に行う場合もある。

平成30年度の電話相談 面接相談の利用件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
電話	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面接	1	4	1	3	1	3	1	1	0	0	0	2



第2号議案 平成29年度決算報告について  
第3号議案 監査報告について  
第4号議案 評議員会開催について  
第5号議案 評議員会開催について  
連絡事項 理事長職務状況報告

#### 第1回定時評議員会

期 日 平成30年 6月19日(火曜日)  
時 間 午後3時00分から3時45分  
場 所 黒野こども園職員室  
議 案 第1号議案 平成29年度事業報告  
第2号議案 平成29年度計算書類及び財産目録の承認について

#### 第2回理事会

期 日 平成30年 3月13日(水曜日)  
時 間 午後 1時00分から2時40分  
場 所 黒野保育園職員室  
議 題 第1号議案 平成30年度第1次補正予算について  
(事業案件承認含む)  
第2号議案 欠員理事補充について  
第3号議案 就業規則、給与規程、育児・介護休業等に関する規則の改訂について  
第4号議案 平成31年度事業計画について  
(平成31年度人事含む)  
第5号議案 平成31年度予算について  
第6号議案 役員任期について  
第7号議案 評議員会開催について  
報告事項 理事長職務報告

#### 第2回評議員会

期 日 平成31年 3月20日(水曜日)  
時 間 午後 15時00分から15時40分  
議 案 第1号議案 平成30年度第1次補正予算案  
第2号議案 欠員理事の補充について  
第3号議案 平成31年度事業計画案  
第4号議案 平成31年度予算案